西洋道中膝栗毛

十二編 上

913.6
2
23

西洋道中膝栗毛十二編自序

放蕩同盟假名垣兄簞瓢屢空ならず立志て陳蔡の厄を免れと書肆と協議ひ子貢が貨殖に從事て此書を戯作しが不圖かく時好に適ひ甲乙丙丁ゝ底止なく遂續て十一編此是去歳の春正月也爾來官途に出身て生計畧定機會とかり痼疾が後

發一促之迫之為不聞抱擲ぞわしの波及
失所猜ゆ書賈翁より反責我と所由來ち
假名垣與余同是人間の廢棄物同氣故ゆ
同功況不能為ゑ〻いかゞ連璧ゑ
海毛元當以屠牛一鼎相喫而後ゑの雇車夫
北方へ行ゑ疾走下車地花街柳陌徘徊
目夜到二時乃擊柝兀々斷腸とゑの投宿

の今夜苦壓卧ゆ徹曉まゆ悃卷の下等樓
ぞ管仲鮑叔何如我秒時十錢乞哀一小白
並構茶谷塹煙を不勝數於今猶覺之我薄
命諒察ゑ十二編續撰をバ代勞さゑ因故
ゑ知斯ゆ御座候以上
紀元二千五百三十三年九月
杉子生覓

開化の人

未開の人
半ば開の人
暁斎

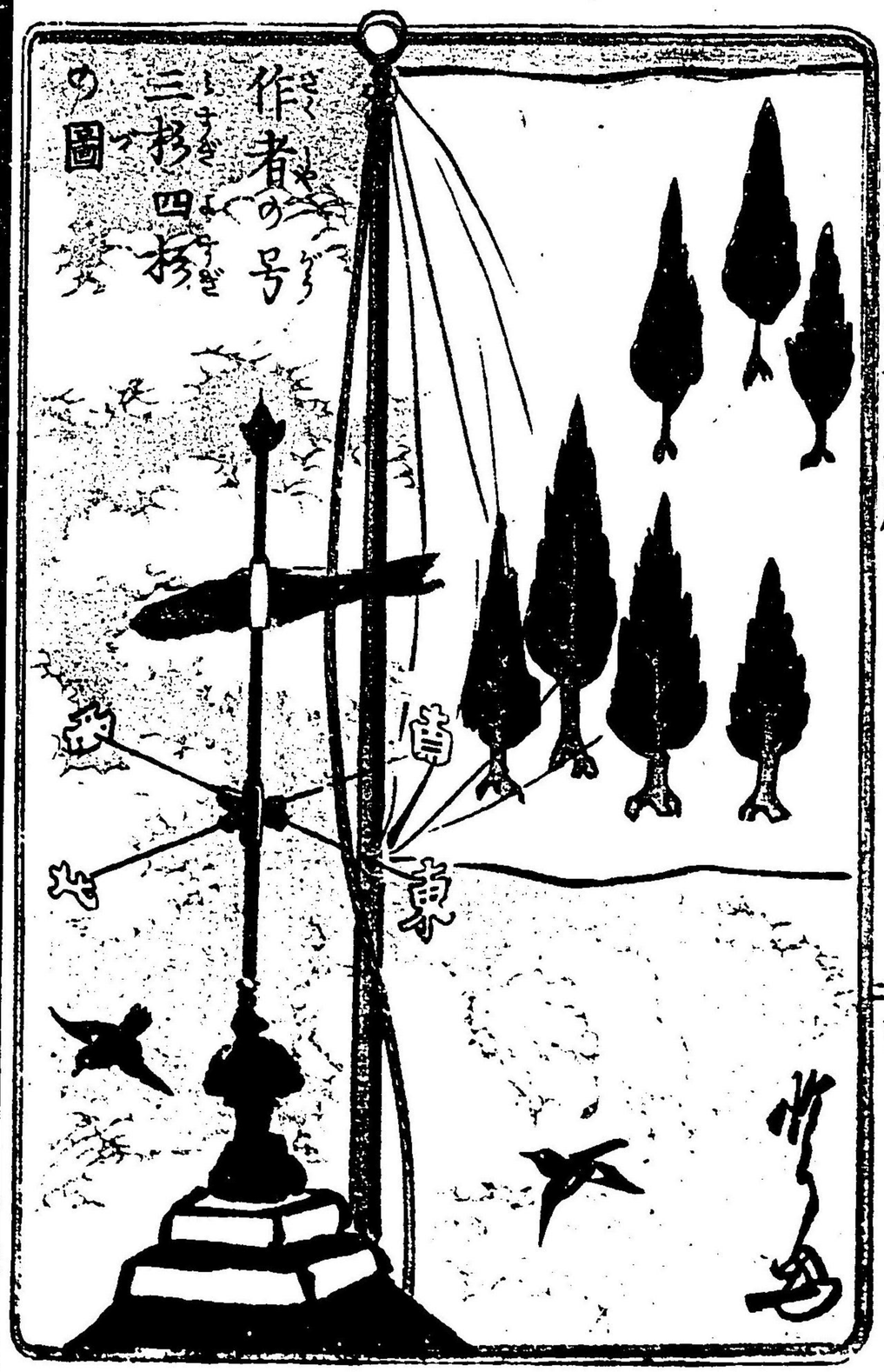
十洲三島說秦
皇笑教長生不
死方處處有錢

樽有酒人間到
處是仙鄉

紹生意

桂洲生產

元亨



西洋繁毛次編依頼て記

野艸未開の彌次郎者多八
維新作の初編始て飛行
船に於て艦に属き洋行丹松
足踏の者航海進て開

化の域ふ。着きんをきる十二
徧。元来作者を不知案内。
浮雲瀬戸を越へんより。此
邊で船を乗換させんと。亜
欧の地をと區分りて地理

ふ明るきく寛見船生を。頼むを
太平海上無事小米国
まづも案切らんと。唐ふ不
倦ご水母蝦眼爺笑閩
知船客を。伝頼の一札後述の

右ハ杜撰の證文件の如し

紀元二千五百三十四年第一月

横濱櫻木町七丁目第十二號地

總生　神奈垣魯文

寛慶

假名垣魯文原作

七杉子總生寛續編

扨も浜次郎が八通次郎等の同社へ九国湾ふく珊瑚樹の賀物受ひ込をしと成慶造て洗濯さとく初めく悔りひよへ拙測ざるを成害易ふ出ふ

まで紀めと紅中面目なげふ平生人よりさるふ物るも疎り出ずく口切者ふ云ゆせども全移ぐのぶ潤法

況て今度の失錯ハ若年の人も奏せ一とるべ
き角逡巡のことなれ共ようやく丸き傳紙出れ一より
日和もよく波風も穏なれバ私ハ蒸気のいたるひ
ようて矢紙付るごとく瞬息ゆゑ数百里をまぢて見ち
シブラルタルノ澳ヲ出ハ地中海の入口なり南
附奥吉利の頃なり蒸場の堅固なるハ世界中第
一番ともいつべき接ひして海岸の岩山を切りく砲
門を開た大砲千挺余も据つけあり南岸ハ亜非利

加の地なれハ海岸ハ昂ち右の蒸場あり表方のる
ゑ狭きところなく六七里たゝり是より外ち大西洋
海と称し奥吉利人の地中海ハ成光を耀ゆまい
この蒸場とマルタ嶋の蒸場と二所ハ実に要害の地
なり堅めたるハ中くのことなれ共猶四の人ゝ
悍ゆうざるものゝ多ゝ此ハ地中海の程沖なる
べ先紅紙海岸ハ繁ぎ合の人ゝハ上陸して所く
と見物まるうちハ海岸ハ通次第の三人ハ丸き傳の

年併よ濃くして互よ顔成あへせ沈瑞とーく居ろう
しゅ面須弟ハ面人よもろひ コウ面君皮の人はん度の一
条ハ実よ深ゲろと出くヨやア珊瑚樹ゑんぞといふ
りのハ素人ゲ千法よ成出せうとドやア新人ゑろー
ち合とうひ何とうひ 一點の脆弱もゑーきさう美
人ゲゑんゑ仏造をーやア考へんと考つく笑ゑんだゲ
面目もゑハ法界で換掘とうふのハけるさのう 「支ふ
遠人れ人銀号達ゲ考つくゑ赤糸のまゑ中でまれて初め

とハ人附ろうゑ人の股成ゲりて万人の尾ゑ玉成抜く
芝居町ドやア河臺ゲ畏まる右糸ドやア立番ゲ横ふを
拍ぎさ 宮居赤坂麹町本郷源川芝高輪四里四方の輩
ドとろゲ人くも雑業のゑろそこゑハ新人とうふ銀寄ゲ
仕換をーさのハ所柵上ゑひろうも水ゲのりさんざアナ
「海浜さんゑ人そりやア掩船ゲぜ拍ふ考へくろるのふ
四十八位の史消ゲ優成搾ぎ出くく町ぶぎゲるよ毛証
出ぜ附のゆうるア号毛まるとうんゑ英語ぜ「達

公文分ち勝負よく成いひ出さぬ者のうち笑ひ
ちやアいけねえてンざ「ナニ貴色がかのひ対くいつん
ぢやア婦人は成西洋へ帰り出世と学て見ても知ッ
て居る千住の馬場去まさんと右衛の江口操さ
んと京町より出張らくめる堅まの先生おいさんと
三人ゞ奥山ぐ電信機の究理と鏡物ふ出うみさ
りざとりのく今度賞出さ柳橋の人の柳先生
うう呼ぶ事しうう何でも彼元ゞ来へと言人

うう内やア接客あるめ人とかの内く戦布の口をひろ
げく出て行くくうると結局海成春婦人人生
あのんだうう弱者ふ接人ふんで居く自己ふらく人
内やア客ふ手洗大連ぐ洋行をするうう人と
成出ゞ行ういく役利る世界ふ内さ上内ゞ
家ドるうう婦人接る生ゞ変へ海成帰り出ぬ
ふ洗いちやア義業も平生農負ふかの内く居る
うう一すあくく行やア西洋の物ふ出さうう

なるべくそるしく一掬的を射る義なりとそうさ
うう峰よ巻ッさんざグ三ッ人ふ細で洋めを走
る命ぐよ あつくさんざとむつ一やるうう〆ばの縁でもは
産せん横濱の繁昌大後金の見物グ兼者利の
博覧舎とう紙を見ふ知くとむつ一やるうう贅物ふ附
屋くなりうとそひまとらいうう二人グ例の西洋
好ざうう紙拾くそうちアまア作ッ一ッも大量ぐ我
安も知りん世界ふ名ちやア是非一遍ハ航海つる

りだグ紙えのとふ図編ッ一くまざ左絵りん陸ふも
なり絵人グ早速出義る機舎ふ名るとん美濃ッ一ん連ハ
雅くざと安うう当の仲号の名をさッ一ッそうちア
ッく色公んぞとりん図北さ人物もまざうく居く
物外もあるん人グ先藤人物るん汽とうんものハ乗締
グ二里の参紙生人く是と催剤ふ一そうう新業と初
めると同ドうて藤ふ地理の京況や人亀の居面
まで知さア知ッさよぐくッちやア児戯ふい矣

宿屋
女の圖

おと一淫
母理
庵ふ
社神体や
百姓
栗毛

潟をまるとゞけるもんだと云れゝゞその時へ分の人を愚よまる何國の果人めらうもゝ気持と智恵とゝ人間法をものゞもあるうゝみやアぞうゝろんでも隙機度変ゆうへいるもあると服の中ゝやア冷笑おうゝくおもゝさゞ難重ゝゝ濃とゝゝたりまゝ年生倍金ふゝさうゝといるくも中紙を一業ゝ貼とゝゝ涼ゝやアゝゝ業ゝ尼ふゝる見形元ゞゝゝふ止ふ惟ゝくゝと和初くおへ

さゞ今考人くゝゝるゝとゝさう大人のゝゝとふ牡牛格ゝ移へとかゝひ出ゞゝゝゝゝひ出ゝゝんゞゞゞゝ一端ハ少掛なくッちやアいくめ人ゝノウ毫さん「そらアおゝ人無度自己ゞそのゝ然ゝゝちやアゝ是ゝ不ゝふ拘教者ゞの業人ゞのとゝゝるんゞ一月そゝ眼ゞ法いくゝゝやア業ゞ長い紙中ゞ迫居ゞやアゝゝ濃の紙屋ゝゝる上弦生れのゝゝゝゝゝゝ方ゞ大分博識ゝゝふ是迄

ちゃうと我家が紙屋人も来てーッとする中
ひるうち見うち二人でおうんで事情成実と仕
ようとやア紙人ウ　ト二人とも目をおきまう西洋風牛肉その外
いろくのさるを撰人とあるの紙屋多くある上流の生
とらひーー人の丈いる元来この人はきーーをうの漢学をどーーく嘗ろん
伏物をよく知りいきさ系出ようとう紙どもも紙屋ある中人ふ一箇の先生ら
しくまひまいせどもゆ門ちうとを且もあまりのおうまて性急のろうふ号を
親安ととるひるでつけ天書ふくく彼帝ゑどちゆくし　他諸帥やう西洋帥や
ト筆書ゆうきろとーーさえとをもつうるもあつ字をるきどうたろふうぞくゆく系
あひの人ゆおるふする人ゆをくのけものふあつてをうくへをふをそのあ
最新をよく平成のそろハぬ伝をつくうるどーて自然新なる人のまる
そうふそそのひとろゆまぶんいろちびひゆくあーつけ様ゆくとろ人ーー
文ーーへイ伝兎ゑさいきーー先生「とんーく名紙おあひて西

洋蘭房ふまうるのうう系商の酒り紙ゑーーまうーく
伝雷るゑどくちうーとくとふゆきどうちゑくそのちちゑ人ゆ
たくあ一云二云ゆるゆをうちふのそやふおうーきとゑ紙のひ出ゆ八平生の
ゑをゑるとかーくけふハいハせる用やゑ妻ゑれべき人ゆく先生どーふどそ
ちうまゆ人系ふのうくゑーー。ゑ「附ふ先生　私ゆ物教ゑぐ
ゑる系注帝　蘭欧ふむうひ
撰文の系書ハふーーをうゆ漢書ゆ元来漢学の
ちううが伝雷せんうう支那の歴史を漢とが二の
ゑふゑうゆを歐羅巴諸物のうゆも及ッく蘭紙ぐ
ゑる人ふやア及びやせんーー先生「実ふ西洋帝さん漢学

ゞ出来くをを西洋各國の大難ゞよく理会まを
海外さん茶多八さんも開化進歩の模方よやめ
ようく一番り天地開闢以来今日ゆくるまを世界
第國の沿革をかたるゞ政治のるやや
器械の製造よいろう尚今のごく尽く文明ゆ
ありさのゆくく一朝一夕のるゞごとにせりません
その始めやア物紙巻く煙ゆるかいまるゞ高価
を減るとゆ初りゞ数を造るとゆまるゞ極数と

格闘く獄獄を生業ゆ
張幕を引ゆくきとゆ性おきゆりゆくそろ
ちゆちゆ修繕て貨幣とゆ人物もるく舎獄と一
所よ師ゆ修く農業紙まるとも知らるゆさ
附を未開の民と号け文洋後でセニバルベリヤンさ
先ゞ丈やア紙ゆも丈物も極んでまう先ゞ分さん
天地のるゆ生ずるものゆ親ゆとゆとゆ又
親ゆ生ばるゆとゆく伏ちゆ兄親ゆやア親の

あるあやアふの名とうへ差かがきまゝるうへさのさ
今でも亜拉比亜。西比利亜。韃靼のやうな所へ行な
風俗ゲ拙ゲまゝる差りゆも皇國のうちでもまア
笠の陳の拙なところへ深中ゆの所鄙な陽所
へゆきやア人間衆ドやアもあるまんと名人所ゲするの
さ　先生へ上総の山生れゞと出中さゲあの重
ふも獨拙なんぞとうへ思ゲありゆもう子　先　みとも
くゝ迄へ牛とうへくゝ繪絵屋みやアニ文人ゲ活今成

ゆくく拙ひおく又下総の鄙ふ辺でハ拙げ言とうへ人
和猫の宮でゝハ猫とうへ人寝ふさんるりのぐ
山猫　そりやアあ面白いあのうんの名でげまる
牛とうへゝゝどうへうこけでゆ中人せう　そ是ふ
うそ興拙あり牛ハ野獣の長めゝく力量陽り
ゝく物紙のせうけくゝも是ゝとうへゝ拙ふ
関て云蘭のさ　提童とうへゆうぞうとれゲあり
ゆもう子　ゆるともくゝ生ゲ繪絵屋ゝどみ陽中

亞拉比亞人
帳幕の圖
暁斎画

無爲化
七杜子

客の取みん事に成揺て咎めと言ふゆゑ中間へ
通入あんで拾ふ添郎成ものるうう喝ひえどめと
のでは言る一ある程度さ足りやア面白うげまね
又八芸濃とのもあ細ぐあり中まろれ一尾を世るる
ふ喝ふるとこ者とのハ時ぞりまぜん皆そ年ふ
ふ一元大和国ありし成りくみ徐りるとしく経
みハ多稼とのやうふ実ゆれどもそ是へ面くのふ学
うう紀せ取の元博く在ふ通ずれバ非暁と中す

とんどざりやせん生八芸濃と称するもたのごく
先り紙ひうりでハ行るも仕やうとの人を仕可とん
うりくあふぐ客ふ向りく濃るを仕拾とをるを
只芸濃くとのふりて此国成合後しく八芸濃と中
生おとにうう出まを通稗雪法附舎是バさもぐのこ人も一
ある程ちよんと実ちやアおうりのやうでげをぐりそれと
知りくそりやア大とうア元ぜげを言くく言ふでおいらん
京都元天祢大坂元生更ふんぞとの人のも徐ぐあう

世ところね「先あるく抑者でとのつるものうんとうく
のハあくの美婦人ゲヲ色と濃く男ゲ紅樓
しく生涯の閨房ゑ伴ふとうく義とうく雄の
方ゑ撰べ世人ゑ雄撰とうく天祢とうく唐結選ゑも
美人夫上ゑ為つ統塞ゑ度めて考るべしとうく
く生涯指たると人るとうく天濃たるとと
如のやうとうくとて左ハ今とちづくく
左ハ白物ゑどていひ紅紅ゑ物を求る

のうるうる紅美人のめて拾び有る世人ゑ紅紅つ
けくゑ紅の婦変ゑ淮ずるので清元常盤津義
変ゑどの婦藝人と変とやうゑ箱でどざる
「ゑる紅先生の婦風うくれ入りまする「まづせ
界のうハ婦ゑ壺まる紅弟一の紅紙とおのれま
まる「そとで一前出来まる

文明も野蛮ゑ有るど表の名

達人一家ゑ艶澤へゑ

一 扨西洋の物産りゞ素性へまだ見まゝさゞ彼
亦国の民たるものも漸くみ農業あ紙さらと紙
業をそなく村落をなし其中に品物を製作し
商業を営むものも出来く自ら商長の法令と
なく約束ふ志さゞ人ども術思の風俗みゝく他の
新義を却し資財人畜紙幣を積めとりたり銀をあし
ゞその後農工商の業とのふ沙の是芸道や文字を
講習し他国と交易をたゞ品物を製し土産を

出し礼義をおのんぢる風みあれども我邦紙幣かゞう
人の見を後今の支那比耳西亜土耳其ホの拙
みありたの紙米国の民とのゞ洋語よハースフィーラ
イスドと唱人吏ゝ農商百工の業盛みく学問
術芸紙所き人情ふ虚飾ゞ少くく法令と明白
ふし刑罰寛大と考ぶハ商今の文明開化みて
洋語よインライテンドと中ま洋語よりやゝ西
洋ごとりのもも諸伶術ぐ者どめゝ頑愚るハ

船人といへ源ごろも口発ちやせんず一丈ふしくも今度のゆうを換懸紙かくとりのこと南の名も知られ人で船のあげ人うつ ごのうを至さん「さまべ先生是うつ我業も彩動人ひきやア只是をうをして泊る船でもありやせんうつ和蘭商法ふ ありそうるものがあり うつ拾出そうとおの付く居るんでもが西洋人の商法紙書る用納をたゆく拾ゆうを口発人やせんうつ子先「そ是ふこそお語ーゆうけシブ

ラルタの瀬戸ハ南岸ふ亜米利加洲ふ属る蒙塵ふく口絞のとうり間狭きところふく僅六七里だうとの海戸ふ不毛ふ絞ること潮のあがれてどざる地中海ふ入る海戸ふ一方口で鼠の口くるふ海戸の外うつ拾強あがを込んで間うつ外人流を出せとうつこと口発うりまん拾れども古来うつ地中海ふ水の溜れとうつこともなく西洋人の流ふ入彩毎日毎夜あがを込む水ハ地中海の

親齋
金銀出入帳

弥次郎
喜多八
通次郎

暖家ゆく湯家のごとくふりて空中ゆ消失せ
るう又高地の處ゆも乃ちうて人の見ゆ届ふ高へ
処ろ〻ゆ外の方へ流れ出でざるとゆ中ほど実
ゆ不可思議なことでおもひが則ち西洋人高法の奥義
を悟る西でどざる（ヘイ引）この漏戸の拵ゆで高人の箱
と悟ることマアどうらへとでげせう（先）こと高法と
ヤスものゆこの漏戸の御のごとく行の品とゆ拵
ひゆるく利益とそれば漏ゆ実ゆんで自分の外ゆ

入金混立えうけるものゆ人ゆ渡ゆとゆ入るし
ゆ金混の引も入りうだうゆしく出金の
高の拵よりて利徳のふゆく扶失の高の紙
行要とりて高ふゆく見入用の金混出
入拵と書くゆも出でとゆ家とゆさく混ゆ入とゆ人
家紙高ゆ拵ゆそのゆも則ち利益徳の瑞
兆を表ゆるのどゆ表ゆるこの漏戸の御の高ゆ
がその命入ゆだうゆゆこと高人とゆ高く

実ふ商法の奥有るべし西洋人ゞ理会いたさでぞなる るべかしの理ありやうあるべしの軒端ゲラーや
ゆるべバ添次第さへ人なるさるちもちくとおひやうじてやうんと
ひかも 一ある 稼ものいの 御のやうふ ぶるむりやで出がる
けりやアマア 上策理屈でまぐ 地の底とつく人の
聘ふつる 稼人で 又外の 海人 潜ゞ でるゆうふ世るの知
ら稼人 稼成 ちやアあんみもありやアまやまり人ト
いそとられを先生理ふつるうく商船の 体 ゆうしゞ船のまま
ふしまるまるんとるかとうどまじしをひ出ゞそうる新とーくる
由 後 一今月ハアらるく 出活 しのわ体をして西洋の実情
ゞ余ゞどあるくありやしさ西で一首こでつけまま

欲ぢ月くやさう吸ひこむ潮戸の水
人の 初ふ あい 底ぬけの 宛

初ぢられのあるもりやゞる入き抱の
慶ぢりるふい 潮戸の 大 二枡

たたい笑ひふ牛まぐれるのゝ新屋みぞ吸りる

西洋道中膝栗毛十二編上終

913.6-2

*913.6
2
23

○第十二編ニサウスアンプトンヘ到着ス

其の所い世界第一開化の源英吉利の港ニ入ル新發明の面白き物向を洗濯ス入ル港ハ不仕早く汽船ニ乗て仕りる日楽ニ汽船ニ乗て仕りる日楽の極致元とりふ幸頼上ル

作者敬白